



隠岐世界ジオパーク新聞

平成26年6月号
(通算 14 号)



島根マインドの会奨励賞の授賞

5月21日、東京都内で「島根マインドの会」の総会が開催されました。島根マインドの会は、首都圏で活躍する島根県出身者の企業、団体の経営者らでつくられており、県と首都圏の架け橋になろうと毎年、総会や顕彰事業を行っています。今回の総会では、昨年9月に世界認定されたことを受けて、隠岐世界ジオパーク推進協議会に奨励金10万円が贈呈され、事務局長が隠岐世界ジオパークの特徴や、魅力を紹介しました。奨励金を受け取った隠岐世界ジオパーク推進協議会副会長の福山孝行知夫村長は、「認定を契機に地域振興に力を入れており、大いに励みになる」と感謝を述べました。



福山孝行知夫村長（左）と森井三郎島根マインドの会代表世話人（右）

APGN共催

第4回JGN全国研修会

5月27日に東京でAPGN(アジア太平洋ジオパークネットワーク)共催による全国研修会が行われ、海外からも世界ジオパークネットワークの審査員や香港ジオパークの研究者の方が講演を行いました。隠岐からは野辺、杉浦が参加した他、推進協議会のテレサ、西ノ島町観光協会のニラさんが通訳として出席しました。今回の研修会では、ジオパーク活動に取り組む国内地域のレベルアップ、そしてAPGN加盟地域との情報共有、連携強化を目指すことを目的としています。今後他地域のジオパークと情報を共有し、隠岐世界ジオパークのさらなる発展に向けて活動していきます。



日本ジオパーク

ネットワーク総会

5月28日に開かれた総会では、松田和久推進協議会会長が日本ジオパークネットワークの理事に就任することが承認されました。松田会長は隠岐で開催された第4回日本ジオパーク全国大会の謝辞を述べ、世界及び日本ジオパークネットワークへのより一層の貢献を決意表明しました。また、隠岐大会会期中に災害に見舞われた、伊豆大島ジオパーク川島会長は復興義援金の謝辞、復興の進捗状況の説明をされました。



隠岐世界ジオパークで、つながりを見つけよう!!

隠岐は、離島ならではの「大地の成り立ち」「独自の生態系」「人の営み」とそのつながりが分かる場所として、世界ジオパークに認定されました。今回は、牧畑を紹介したいと思います。



国賀浜の段々畑の様子。昔は、島のいたる所で牧畑が行われていました。(西ノ島)

牧畑

ジオパークにとっても牧畑は重要なトピックです。それは、この牧畑が隠岐の環境に合わせてデザインされているからです。牧畑のしぐみに凝らされた工夫を通じて、普段は意識することのない、隠岐の大地と地域としての特徴を理解することができるのです。

オリジナルフレーム切手『隠岐世界ジオパーク』販売



5月23日より隠岐世界ジオパーク加盟記念フレーム切手シートが隠岐4町村の全郵便局窓口で販売となりました。

1枚 1,230円(税込)

観光周遊バス

隠岐ジオパークデビュー

の旅

隠岐の島町

今回から観光周遊バスで巡ることのできるジオスポットを紹介いたします。第1回目は八百杉(だんぎょうコース)です。

【第1回】八百杉(やおすぎ)

八百杉は、隠岐三大杉の一つで、下西地区の玉若酢命神社境内にあります。その樹齢は二千年ともいわれます。樹高は28m、胸高周囲は11mの巨木です。この八百杉には様々な言い伝えがあり、その一つには、この杉の根元にはかつて蛇が住んでおり、眠っているうちに成長する八百杉の根に包まれてしまったため、今でも周囲が静かな時には、蛇のいびきが根元から聞こえる。という話もあります。(隠岐の島町観光振興課)



八百杉

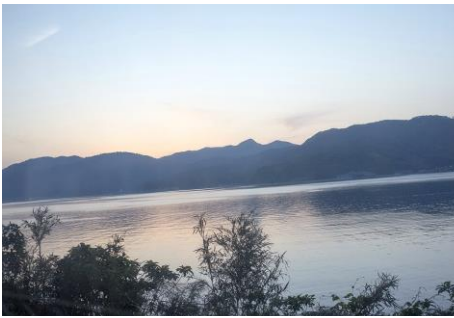
菱浦湾を歩く人来る人

海士のマルチワーカーの目から

海士町

フェリーのターミナルであるキンニヤモニヤセンターから徒歩数分、小高い丘の上にあるホテルで私は働いています。このホテルからは島前カルデラによって形成された海や、お隣の西ノ島や島後、島の往來を眺めることができます。本土と隠岐諸島を繋ぐフェリーが入港する際は、とてもダイナミックで見応えがあります。また、島前の西ノ島や知夫里島へ人々を渡す内航船が行き来する様子を見ると、とくに海士町からは船以外では島外へ行けないので、自身が島にいることを実感できます。ホテルからの眺めは朝日や夕日、曇りや雨、晴れた日、季節によって景色が異なり、日々美しいです。私はホテルでこの景色に癒されながら、そしてお客様にもこの景色を味わっていただけたらいいなと思いつつ働いています。

海士町には、岩がきやナマコの加工、冷凍施設での勤務など季節ごとに仕事が変わるマルチワーカーが3名います。



牧畑石垣清掃

汗をかくボランティア

西ノ島町

西ノ島町では、「牧畑を後世に伝える会」主催で開催する草刈りボランティア作業を鬼舞・ヒメヒマワリの丘にある合垣(あいがき)周辺で行いました。

約20名のボランティアの方による草刈りなどの清掃活動を行った後、口村光房さん(西ノ島ふるさと案内人)によるミニ自然観察会が行われ、優れた先人の知恵である牧畑とその周辺の自然環境などの説明があり、興味深いお話を聞くことができました。

この活動は毎年春に行われていきますので、来年の活動にも多くの方のご参加をお待ちしています。(西ノ島町教育委員会)



合垣周辺での草刈り作業の様子

名垣を守ろう

私たちが出来ることを

知夫村

5月18日(日)に赤ハゲ山で、教育委員会主催の「名垣を守ろう」が行われました。名垣は、古くから行われてきた牧畑農業で、牧と牧を分ける石積みの境で、全長687メートルが現存しています。歴史的な遺産として村の文化財にも指定されていますが、雨や風などのせいで少しずつ壊れているため、小中学生や教員など35名が修復作業を行いました。牧畑を世界農業遺産(ジオス)への登録を目指す動きもあります。これからは、私たちがふるさとのために出来る大事なことのひとつです。(知夫村観光振興課)



隠岐世界ジオパーク新聞へのご質問、ご意見、ご要望は下記までお寄せください。



☎ (08512) 2-9636

FAX (08512) 2-9626

メール info@oki-geopark.jp



隠岐世界ジオパーク推進協議会事務局

〒685-8601 隠岐郡隠岐の島町港町塩口24番地
(隠岐支庁3階 県民局内)